



平成 30 年 5 月 10 日

各 位

会社名 株式会社 フレンドリー
代表者名 代表取締役社長 後藤 政利
(コード 8209 東証第 2 部)
問合せ先 経営管理部長 中尾 武史
(TEL 072-874-2747)

通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 29 年 5 月 12 日に公表しました平成 30 年 3 月期 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日) の業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

また、平成 30 年 3 月期において、下記の通り特別損失を計上する見通しとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 30 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	当期純利益 百万円	1 株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想 (A)	7,486	54	61	9	0.07
今回修正予想 (B)	7,250	△109	△96	37	2.18
増 減 額 (B-A)	△236	△163	△157	28	—
増 減 率 (%)	△3.2	—	—	311.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	7,890	△153	△144	△356	△26.89

2. 修正の理由

売上高につきましては、3 店舗の閉店と既存店売上高の計画未達を主な要因とし、前回予想を下回る結果となりました。各業態毎に対策を実施いたしましたが、消費者の節約志向は依然として強く、来店客数は「海鮮うまいもんや マルヤス水軍」、「カフェレストラン ゴッツ」の新業態出店により計画比で 103.2%となりましたが、お客様単価が計画比で 93.8%となり売上高の計画を達成するに至りませんでした。主力業態「産直鮮魚と寿司・炉端 源ペい」の既存店売上高が前年を 10%程度下回るなど厳しい状況となりました。

営業利益、経常利益につきましては、第 2 四半期以降の既存店売上高の減少影響に加え、広告宣伝費の増加 34 百万円、予想外の社員退職に伴う社員の中途採用、パート・アルバイト

ト募集費の増加 12 百万円、及び原油等の輸入価格高騰による光熱費の増加 9 百万円などにより前回予想を下回る見込みとなりました。

また、当期純利益につきましては、4 物件の固定資産譲渡に伴う売却益 156 百万円、特別損失 39 百万円の計上等により、前回予想を上回る見込みであります。

3. 特別損失の内容

不採算店舗に係る減損損失 19 百万円、及び店舗閉鎖損失 9 百万円、固定資産の譲渡に伴う売却損 9 百万円、固定資産除却損 1 百万円、合計 39 百万円の特別損失を計上する見込みであります。

*上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上